

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	平成 30 年 4 月 23 日
報告者	小川 猛
助成団体名 (所属団体名)	企業組合労協センター事業団 草津地域福祉事業所みんなの家
団体住所	〒 525-0033 滋賀 都道府県 草津市東草津 1-7-15
団体電話番号	077 - 567 - 5579
代表者 (助成対象者)	田中 紀代子
助成対象事業	よって子（学習支援を軸としたこどもの居場所づくり）
事業（助成）期間	平成 29 年 7 月 ～ 平成 30 年 3 月
事業費総額	916,495 円
助成金総額	906,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

毎週金曜日 19:00～20:30

草津市岡本町 1371-7 フレール西鴻池 106 号

(草津市民営児童育成クラブ みんなの家 第2にこに子)

志津南小学校区内の小学生および高穂中学生を対象に学習支援をする。

(対象者や保護者の必要に応じ相談支援や学習支援だけでなく、週末の居場所のサービスを無料で提供する。支援員は、統括支援員を置きアセスメント(利用者の状況把握等のため)。みんなの家の学童育成クラブの支援員や大学生ボランティアにより構成しました。

・広報活動では、近隣の大学・大学のボランティアセンター等へ挨拶や郵送での周知などを事業所全体で行ってきました。また、同時進行で対象学区のポスティングと市の教育委員会を通じて対象の小学校・中学校で保護者向けに配布許可を得る事ができました。その時に合わせて学校へ挨拶に行き事業の概要説明なども行いました。

プログラム 19:00～20:00 利用者が希望する学習プログラムにそった
学習目標を設定し、学習する。

20:00～20:30 ゲームや読書等フリータイム(異年齢交流)

20:30～ 帰宅送り・保護者への連絡(気づき) 相談対応

事業申込み数 14名。(のべ利用者数257名)

合計26回開催

・初回の面談時には、女性のスタッフが行き安心して相談・学習できる環境である事を感じ取ってもらえるようにと考えて行っていました。

・学習支援では、各個人が持ってきた自身の課題やこちらで用意しているテキスト・参考書などを使い、自身の苦手部分の学習や得意分野の学習を行い学習意欲向上を考えていきました。

・子ども企画やお楽しみイベントでは、クリスマスの時期に食育の一つとして(食への興味を高める)、子ども達とケーキ作りを行いました。2グループに分かれて作り、子ども達が考えてケーキのデコレーションをしました。

3、事業成果

◎継続した学習場所の提供や学習補助支援が、今のこの地域では必要不可欠な事をより一層痛感しました。

・高校受験を控えた中学 3 年生は、当初は学習していても自信がない様子でした。少しずつ慣れてこられ自分から進み学習に取り組まれるようになりました。最初は定時制への進学を希望されておられましたが公立高校に合格されました。好きな野球を続けると嬉しそうに話してくれました。

又高校合格発表後も、中学 1 年生の弟（彼はサッカーをしている）と一緒に利用され数学の難しい問題に取り組んでおる姿に感銘を受けました。

・小さな妹が 2 人いる小学校 1 年生の女の子、時計の問題がだいの苦手でしたが、なんとかしたく 60 進法（分）を支援員と一緒に勉強しました。3 月には、時計の時間が読めるようになり、うれしそうに今は勉強しています。

・小学校 1 年生の女の子、塾の課題である英語や国語の教材を持参しているが難しそう様子でした。支援員が横につき最後までやりきる様にと声かけをして意欲低下を抑えながら行っていました。勉強後、皆と遊ぶ勉強かるたで、読み手をするもすいすい読んで得意顔でした。

・90 分間の中で始めの 60 分間は学習時間とし、その後は交流時間としました。この交流時間に居場所作り時間として、本が好きな子どもは本を読み落ちついたり、友達とともに将棋やカードゲーム等を行い交流しました。相談支援の部分では、勉強の時間中又は、勉強終了後に勉強のことや悩み事等を子どもたちから発信があった際には、話を聴きいれていきました。

・地域共生型社会推進事業や、開催場所『第 2 にこに子』の存在も多くの方に知ってもらえる機会になりました。

・保護者から、よって子に参加してから前向きに勉強に取り組むなど意識に変化が出てきて『勉強が少し楽しくなった』というお話をいただきました。

・色々な困難を持った子ども達が想定以上沢山おられます。将来に向け色々な可能性、ノビシロ 長所 潜在的な能力を持っているのではと感じました。

4、今後の課題など

- 子どもの人数に対してボランティアスタッフの不足のため、みんなの家のスタッフの負担がかかりました。ボランティアの事業参画協力依頼のポスティングや近隣大学での広報などを行ってきていますが、厳しい状況でした。交通費1,000円支給のみでは難しかったと考えています。今後は、ボランティアの処遇改善やチラシの見直し等が必要不可欠であります。
- 平成30年度も継続して若干の参加費をいただきこの事業を続けていきます。継続希望者も多数おられます。事業の内容は、今年度のプログラムをベースにし新たに魅力的な活動も取り入れていきます。
- 学習に関しての苦手部分の指導方法や学習後のプログラム等、指導者の合同勉強会等も開催していきます。
- 学習する事自体が、苦手とする子どもがいます。その子どもに対して学習する事の大切さ、面白さを知ってもらえる支援を考え実行する課題も見えてきました。